

東洋史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学 者 読替先授業科目
東洋史概論	中国史概説Ⅰ	2	大野 晃嗣	3	前期火曜日2講時	
東洋史概論	中国史概説Ⅱ	2	大野 晃嗣	4	後期火曜日2講時	
東洋史基礎講読	『資治通鑑』講読(1)	2	川合 安	3	前期月曜日5講時	
東洋史基礎講読	『資治通鑑』講読(2)	2	川合 安	4	後期月曜日5講時	
東洋史各論	六朝時代の諸問題	2	川合 安	5	前期金曜日2講時	
東洋史各論	隋唐時代の諸問題	2	川合 安	6	後期金曜日2講時	
東洋史各論	清朝の外藩モンゴル統治の諸問題	2	岡 洋樹	5	前期水曜日4講時	
東洋史各論	中国近世史の諸問題Ⅰ	2	大野 晃嗣	5	前期火曜日5講時	
東洋史各論	中国近世史の諸問題Ⅱ	2	大野 晃嗣	6	後期火曜日5講時	
東洋史各論	中国古代都城制の諸問題	2	内田 昌功	集中	集中講義	
東洋史各論	10-13世紀の東ユーラシアをめぐる諸問題	2	渡辺 健哉	集中	集中講義	
東洋史演習	『晋書』載記の研究Ⅰ	2	川合 安	5	前期金曜日4講時	
東洋史演習	『晋書』載記の研究Ⅱ	2	川合 安	6	後期金曜日4講時	
東洋史演習	明清史料研究Ⅰ	2	大野 晃嗣	5	前期水曜日5講時	
東洋史演習	明清史料研究Ⅱ	2	大野 晃嗣	6	後期水曜日5講時	

科目名：東洋史概論／ Oriental History (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB32201, **科目ナンバリング：**LHM-HIS203J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国史概説 I

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Chinese History

3. 授業の目的と概要：中国明王朝（1368-1644）の成立から滅亡までの歴史を学びつつ、官僚制度、科挙制度といった中国史を理解する上で必要な項目について、漢文史料を使用しながら理解を深める。そしてそれらの制度が様々な形で現在にまで残っていることを知る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course helps students learn the history of the Ming Dynasty (1368-1644) from the formation to the destruction, deepen understanding the bureaucracy system and civil examination system at the time. And, moreover, students consider that these systems remain in various forms to the present-day China.

5. 学修の到達目標：中国史を理解する上で必要な官僚制や政治制度についての基礎知識を得ながら、特に中国明王朝の歴史について理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course helps students learn basic knowledge about bureaucracy and political system which is necessary for understanding Chinese history so that students can acquire abundant knowledge the history of Ming dynasty and the system.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業はリアルタイムオンラインで行う予定です。またこの科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは【 】です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. ガイダンス
2. 中国に関する基礎知識
3. 明王朝成立史（1）
4. 明王朝成立史（2）
5. 明王朝成立史（3）
6. 官僚制度－中央官制（1）
7. 官僚制度－地方官制（2）
8. 明代中期の歴史（1）
9. 明代中期の歴史（2）
10. 例の成立（1）
11. 例の成立（2）
12. 明末政治史（1）
13. 明末政治史（2）
14. 明清交替の歴史
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席点（30％）とレポート（70％）。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：予習が必要なプリントについては随時宿題形式で指示を行う。また、続き物の講義であるので、復習を行い知識を確認し、次の授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋史概論／ Oriental History (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB42201, **科目ナンバリング：**LHM-HIS203J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国史概説Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Chinese History

3. 授業の目的と概要：中国清王朝（1616-1912）の成立から滅亡までの歴史を学びつつ、官僚制度、科挙制度といった中国史を理解する上で必要な項目について、漢文史料を使用しながら理解を深める。そしてそれらの制度が様々な形で現在にまで残っていることを知る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course helps students learn the history of the Qing Dynasty (1616-1912) from the formation to the destruction, deepen understanding the bureaucracy system and civil examination system at the time. And, moreover, students consider that these systems remain in various forms to the present-day China.

5. 学修の到達目標：中国史を理解する上で必要な官僚制や政治制度についての基礎知識を得ながら、特に中国清王朝の歴史について理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course helps students learn basic knowledge about bureaucracy and political system which is necessary for understanding Chinese history so that students can acquire abundant knowledge the history of Qing dynasty and the system.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この授業はリアルタイムオンラインで行う予定です。またクラスルームで情報を発信しますので、確認するようにしてください。

1. ガイダンス
2. 中国に関する基礎知識
3. 清王朝成立史（1）
4. 清王朝成立史（2）
5. 康熙・雍正・乾隆時代史（1）
6. 康熙・雍正・乾隆時代史（2）
7. 康熙・雍正・乾隆時代史（3）
8. 清朝文書行政（1）
9. 清朝文書行政（2）
10. 官僚制度－中央官制
11. 官僚制度－地方官制
12. 清朝後期史（1）
13. 清朝後期史（2）
14. 清朝の滅亡
15. まとめと筆記試験

8. 成績評価方法：

出席点（30％）とレポート（70％）。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：予習が必要なプリントについては随時宿題形式で指示を行う。また、続き物の講義であるので、復習を行い知識を確認し、次の授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋史基礎講読／ Oriental History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：川合 安

コード：LB31503, **科目ナンバリング：**LHM-HIS209J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. **授業題目：**『資治通鑑』講読（1）
2. **Course Title (授業題目)：**Z I Z H I T O N G J I A N 〈Reading〉（1）
3. **授業の目的と概要：**中国史研究（特に前近代）には、中国古典文（漢文）で書かれた史料（歴史資料）の読解が必須である。そのための基礎訓練の材料として『資治通鑑』唐紀の隋唐交替期の記述をテキストとする。受講者は、このテキストを読解し、訓読と現代日本語訳を作成する作業を体験する。
4. **Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：**The aim of this course is to help students acquire the basic skills needed to read the Chinese classics as historical materials by reading “Zizhitongjian”（資治通鑑：literally “Comprehensive Mirror in Aid of Governance”）.
5. **学修の到達目標：**中国古典文（漢文）で書かれた史料を、辞書を使いこなして読解できるようになる。
6. **Learning Goals(学修の到達目標)：**Students will develop the basic ability to read the Chinese classics as historical materials.
7. **授業の内容・方法と進度予定：**

この講義の1～3回目は『資治通鑑』を読解するために必要な事項を解説する講義を行い、4回目以降は、演習形式で行い、テキストを少しずつ区切って読み進める。

 - 1、ガイダンス：授業の進め方、『資治通鑑』について、等
 - 2、隋唐交替期の歴史
 - 3、漢文語法概説
 - 4、『資治通鑑』唐紀講読（1）煬帝、宇文化及に捕われる
 - 5、『資治通鑑』唐紀講読（2）煬帝の最期
 - 6、『資治通鑑』唐紀講読（3）隋の皇族の殺害
 - 7、『資治通鑑』唐紀講読（4）隋の朝臣たちの処遇（1）
 - 8、『資治通鑑』唐紀講読（5）隋の朝臣たちの処遇（2）
 - 9、『資治通鑑』唐紀講読（6）宇文化及、大丞相となる
 - 10、『資治通鑑』唐紀講読（7）李淵、相国となる
 - 11、『資治通鑑』唐紀講読（8）宇文化及、江都から長安へ向けて出発
 - 12、『資治通鑑』唐紀講読（9）沈法興の動向
 - 13、『資治通鑑』唐紀講読（10）稽胡の動向
 - 14、『資治通鑑』唐紀講読（11）東都洛陽の情勢
 - 15、授業の総括
8. **成績評価方法：**

2回目の授業以降、毎回課す課題によって評価する。
9. **教科書および参考書：**

教科書：資料を配布する

参考書：小川環樹・西田太一郎『漢文入門』（岩波書店「岩波全書」、1957 年）。
田中謙二編訳『資治通鑑』（筑摩書房「ちくま学芸文庫」、2019 年）。
ほかは、授業中に紹介する。
10. **授業時間外学習：**課題の作成に取り組む。
11. **実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. **その他：**なし

科目名：東洋史基礎講読／ Oriental History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LB41503, 科目ナンバリング：LHM-HIS209J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『資治通鑑』講読（2）
2. Course Title (授業題目)：Z I Z H I T O N G J I A N (R e a d i n g) (2)
3. 授業の目的と概要：『資治通鑑』の読解を継続し、中国古典文（漢文）で書かれた史料を読解するためには、漢和辞典のみに依存した予習では限界があることを体得する。2 回目の授業以降、受講者は、全員、書き下し文と現代日本語訳を作成し、あわせて、関連史料や官職、制度等の調査結果についてもまとめて、課題として提出する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the basic skills needed to read the Chinese classics as historical materials by reading “Zizhitongjian” (資治通鑑：literally “Comprehensive Mirror in Aid of Governance”) .
5. 学修の到達目標：学部演習において最低限必要な、史料読解のための基礎学力を身につけ、手持ちの漢和辞典のみならず、東洋史研究室所蔵の大型辞書や関連の基本的史料などを自由自在に使いこなせるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the basic ability to read the Chinese classics as historical materials.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
最初の 2 回は講義形式、3 回目以降は演習形式で行う。
1、ガイダンス、隋唐史関係研究論文の調べ方等
2、隋唐時代の官職、制度等の調べ方
3、『資治通鑑』唐紀講読（1）突厥の動向
4、『資治通鑑』唐紀講読（2）東都洛陽の内紛
5、『資治通鑑』唐紀講読（3）宇文化及の動向（1）
6、『資治通鑑』唐紀講読（4）宇文化及の動向（2）
7、『資治通鑑』唐紀講読（5）王君廓、李淵に降
8、『資治通鑑』唐紀講読（6）蕭銑の動向（1）
9、『資治通鑑』唐紀講読（7）蕭銑の動向（2）
10、『資治通鑑』唐紀講読（8）李淵、皇帝に即位
11、『資治通鑑』唐紀講読（9）越王侗、皇帝に即位
12、『資治通鑑』唐紀講読（10）突厥と李淵の関係
13、『資治通鑑』唐紀講読（11）律令の修訂
14、『資治通鑑』唐紀講読（12）唐王朝の人事
15、授業の総括
8. 成績評価方法：
2 回目の授業以降、毎回の授業で課す課題によって評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書：資料を配布する
参考書：授業中に紹介する
10. 授業時間外学習：授業時間外に課題（漢文史料の訳注）を作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
東洋史基礎講読（3 セメスター）と連続して履修することが望ましい。

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：川合 安

コード：LB55202, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：六朝時代の諸問題

2. Course Title (授業題目)：Subjects of The Six Dynasties Time

3. 授業の目的と概要： 中国の六朝時代（魏晉南北朝時代、220～589）は、秦漢古代帝国の崩壊をうけて、新たな国家秩序構築の模索が行われた時代であった。講義では、この時代につくられた政治・社会体制—いわゆる「貴族制」の構造や実態について分析し、当時を生きた人々の社会的活動や思想などの具体相を浮かび上がらせることを試みる。この混沌と模索の時代を生きた人々の営みについて、自分なりに考えつつ、中国史における六朝時代の意味について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers the history of the Six Dynasties time (220-589) to help students understand the characteristics of the Six Dynasties in Chinese history.

5. 学修の到達目標：六朝時代の政治・社会体制の特質を理解し、興味をもった論点について、自分なりに調査して論じることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students gain the perspective needed to review the common image of the Six Dynasties time.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義形式で授業を行い、2回目以降、毎回、課題を課す。

- 1、ガイダンス、六朝時代の概略
- 2、秦漢帝国の概要
- 3、九品官人法と貴族制の成立
- 4、東晋の貴族制
- 5、孫恩・盧循の乱
- 6、劉宋政権の成立
- 7、南齊の政治
- 8、北魏・孝文帝の改革
- 9、梁の武帝の改革
- 10、『梁書』と『南史』
- 11、侯景の乱
- 12、陳朝の成立
- 13、東魏・北齊の政治
- 14、西魏・北周の政治
- 15、総括と展望

8. 成績評価方法：

2回目以降の授業で毎回課す課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布

参考書：川勝義雄『魏晉南北朝』（講談社「学術文庫」2003年）。

川本芳昭『中華の崩壊と拡大』（講談社「学術文庫」2020年）。

ほかは、講義中に紹介する。

10. 授業時間外学習：課題の作成を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LB65203, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：隋唐時代の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Subjects of Sui and Tang dynasties

3. 授業の目的と概要：隋唐時代は、六朝時代の政治的分裂を克服して統一を回復した時代であったが、なお、多くの矛盾をかかえていた。このような隋唐時代政治史の諸問題について考察し、理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course covers the political history of Sui and Tang dynasties (589-907) to help students understand the characteristics of the Sui and Tang dynasties in Chinese history.

5. 学修の到達目標：隋唐時代の政治史の諸問題について、その概略を理解し、特に関心をもった問題について、関連の研究論文等の調査を進め、考察できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students gain the perspective needed to review the common image of the Sui and Tang dynasties.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義形式で授業を行い、2 回目以降、毎回、課題を課す。

1、ガイダンス、隋唐時代の概略

2、隋王朝の政治

3、貞観の治

4、唐と突厥

5、唐と高句麗

6、則天武后の時代

7、玄宗の時代

8、唐と渤海国

9、安史の乱

10、徳宗の時代

11、憲宗の時代

12、牛李の党争

13、会昌の廃仏

14、黄巢の乱

15、総括

8. 成績評価方法：

2 回目以降、毎回の授業で課す課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：布目潮風・栗原益男『隋唐帝国』（講談社「学術文庫」、1997 年）。

氣賀澤保規『絢爛たる世界帝国』（講談社「学術文庫」、2020 年）。

その他、授業で紹介する。

10. 授業時間外学習：課題の作成を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：岡 洋樹

コード：LB53402, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：清朝の外藩モンゴル統治の諸問題

2. Course Title (授業題目)：The Qing's rule over Mongolia

3. 授業の目的と概要：清朝（大清国）は、中国最後の王朝であるが、最盛期におけるその支配下にはユーラシア内陸部の広大な空間が含まれた。とくにモンゴル高原から新疆北部に分布するモンゴル系遊牧民諸集団は、清朝の拡大過程で重要な役割を果たした。そもそも清朝自体が満蒙の王族と漢人諸侯による太宗ホンタイジ推戴を画期として成立したのであり、モンゴルはその国家構造の不可分の一部を構成した。1644 年の入関により中国本土支配の開始により、モンゴルは支配エリートたる八旗と内地諸省とともに新の統治カテゴリーの一つとしての「外藩」を構成した。「外藩」体制は、清代を通じて維持され、その最終的な消滅は、1920～30 年代のことである。それゆえ、清の国家構造の特徴である「外藩」は、近代の東北アジア史の「焦点」の一つであった。本講義では、近代をも視野に含めつつ、清朝統治における外藩部分の制度的・社会的特徴を概観しつつ、アジアにおける前近代帝国統治の意味を考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The territory of the Qing dynasty, the last of Chinese dynasties, covered broad space of Inner Eurasian region where various nomadic peoples lived. Especially the Mongolian nomads played important role in the Qing's advancement. The Qing itself was established by Manchu-Mongolian noble princes and Chinese warlords when they enthroned Taicong Huntaiji in 1636 and the former Mongolian polities were comprised in its ruling structure. As the result of the Qing's advancement into China proper in 1644, Mongolian princes were incorporated in the administrative structure called "Wai fan". The Wai fan regime was maintained until the collapse of the Qing's rule in 1912 and finally disappeared in 1920-30s. Accordingly the collapse of Wai fan regime became a pivot of political turbulence of Modern Northeast Asia. In this lecture The historical context of the Qing's rule over Mongolia is discussed from the viewpoints of administrative system and social structure and furthermore the general nature of the rule of multicultural pre-modern empire.

5. 学修の到達目標：清朝の国家統治が、その内陸アジア部分においていかなる制度的特徴と、歴史的文脈を有するのかを学ぶことで、東北アジアの文化的多様性の歴史的淵源を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students are expected to understand about the historical origin of the cultural diversity of modern Northeast Asia through investigating the Qing's ruling structure and its historical context of Inner Asian history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義では、以下の論題について考察を行う。

1. 清朝のモンゴル統治カテゴリーとして「外藩」

清朝の国家構造は、皇帝とマンジュ諸王が率いる支配エリートとしての八旗、モンゴル諸王属下としての外藩、明の領域を継承した内地直省の三つの部分から構成されていた。ここでは、清の外藩の統治構造を制度的に概観する。

2. 外藩統治成立の歴史的経緯

清の統治カテゴリーとしての外藩は、17 世紀から 18 世紀にかけて漸次形成されたが、その統治要件の多くが北元期のモンゴルに由来するものであった。ここでは、清初から 17 世紀末までの満蒙関係を概観しつつ、北元期のモンゴル社会における統治のあり方が清の外藩へと取り込まれていく過程を検討する。

3. 清代モンゴルの社会構造

清の統治下におけるモンゴルの社会構造は、1950 年代末からモンゴル人民共和国の研究者によって、文書史料（档案）を用いて研究されてきた。その後モンゴル国や中国内モンゴルに残る膨大な文書史料が刊行され、当時モンゴルの社会構造が解明されつつある。ここでは、最新の研究成果を用いて、モンゴル遊牧民社会の特徴を論じる。

4. 「封禁政策」論の問題

清のモンゴル統治の特徴としてよく言及されるのが「封禁」と呼ばれる政策である。これは、内地直省と外藩の相互の人の往来を厳しく制限し、漢人とモンゴル人の分離統治をはかったとするものである。ここでは、近年の文書史料による研究成果を踏まえて、封禁政策の現実性について議論する。

5. 清朝のモンゴル統治の歴史的文脈

清のモンゴル統治の歴史的 성격については、これまで様々な議論がなされてきた。ここでは、清の支配期のモンゴルを、モンゴル史の文脈に位置付けるとともに、清朝国家の歴史的 성격にも言及したい。

8. 成績評価方法：

出席と学期末に課するレポートにより評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考文献は講義の中で適宜指示する。

1 0. 授業時間外学習：出席者は、毎回講師が指示する文献を読むことによって、講義に対する理解を深めること。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB52501, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. **授業題目：**中国近世史の諸問題 I

2. **Course Title (授業題目)：**Issues of the Early Modern China

3. **授業の目的と概要：**近世中国における社会と官僚制度・教育制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。

4. **Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：**The purpose of this lesson is to learn basic knowledge about society and the bureaucracy and education system in early modern China and to develop the ability to read English papers on Chinese historical research.

5. **学修の到達目標：**欧米の中国史研究の読解を通して、その研究の視点を学ぶとともに、近世中国王朝の官僚機構と教育システムについて基本的な知識を身につける。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

6. **Learning Goals(学修の到達目標)：**Reading of Western Chinese history research, students learn its viewpoint and get basic knowledge about the bureaucracy and education system of the early modern Chinese dynasty. Students need to submit the translation of the English paper into Japanese before the class.

7. **授業の内容・方法と進度予定：**

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは【 】です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー

2. 中国近世史の諸問題 Iー (1) 及び行政制度の基礎知識

3. 中国近世史の諸問題 Iー (2) 及び行政制度の基礎知識

4. 中国近世史の諸問題 Iー (3) 及び社会構造の基礎知識

5. 中国近世史の諸問題 Iー (4) 及び社会構造の基礎知識

6. 中国近世史の諸問題 Iー (5) 及び法律制度の基礎知識

7. 中国近世史の諸問題 Iー (6) 及び行政区画の基礎知識

8. 中国近世史の諸問題 Iー (7) 及び行政区画の基礎知識

9. 中国近世史の諸問題 Iー (8) 及び科举制度の基礎知識

10. 中国近世史の諸問題 Iー (9) 及び科举制度の基礎知識

11. 中国近世史の諸問題 Iー (10) 及び人事制度の基礎知識

12. 中国近世史の諸問題 Iー (11) 及び人事制度の基礎知識

13. 中国近世史の諸問題 Iー (12) 及び科举と近世中国社会に関する討論 (1)

14. 中国近世史の諸問題 Iー (13) 及び科举と近世中国社会に関する討論 (2)

15. 中国近世史の諸問題 Iー (14) 及びまとめ

8. **成績評価方法：**

授業中の発表時にレポートの提出を要求する。

9. **教科書および参考書：**

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. **授業時間外学習：**毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

11. **実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. **その他：**なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB62501, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国近世史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：近世中国における社会と官僚制度、教育制度についての基礎的知識を身につけると同時に、英語で書かれた中国史の研究論文の読解力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this lesson is to learn basic knowledge about society and the bureaucracy and education system in early modern China and to develop the ability to read English papers on Chinese historical research.

5. 学修の到達目標：英語で書かれた中国史に関する学術論文を読みながら、近世中国の社会と官僚制度。教育システムについて基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳しながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this lesson is to learn basic knowledge about society and the bureaucracy and education system in early modern China and to develop the ability to read English papers on Chinese historical research. Students need to submit the translation of the English paper into Japanese before the class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業はオンラインによって行う。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー

2. 中国近世史の諸問題Ⅱー(1)及び行政制度の基礎知識

3. 中国近世史の諸問題Ⅱー(2)及び行政制度の基礎知識

4. 中国近世史の諸問題Ⅱー(3)及び商業史の基礎知識

5. 中国近世史の諸問題Ⅱー(4)及び商業史の基礎知識

6. 中国近世史の諸問題Ⅱー(5)及び法律制度の基礎知識

7. 中国近世史の諸問題Ⅱー(6)及び行政区画の基礎知識

8. 中国近世史の諸問題Ⅱー(7)及び行政区画の基礎知識

9. 中国近世史の諸問題Ⅱー(8)及び行政区画の基礎知識

10. 中国近世史の諸問題Ⅱー(9)及び科举制度の基礎知識

11. 中国近世史の諸問題Ⅱー(10)及び科举制度の基礎知識

12. 中国近世史の諸問題Ⅱー(11)及び科举制度の基礎知識

13. 中国近世史の諸問題Ⅱー(12)及び社会構造と科举制度に関する討論

14. 中国近世史の諸問題Ⅱー(13)及び経済構造と科举制度に関する討論

15. 中国近世史の諸問題Ⅱー(14)及びまとめ

8. 成績評価方法：

授業中の発表時にレポートの提出を要求する。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：内田 昌功

コード：LB98827, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国古代都城制の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Issues of the Capital City Planning in Ancient China

3. 授業の目的と概要：この授業では中国の都城制について考える。対象とするのは主に先秦期から隋唐時代までの都城である。都城の形態は、都城思想や規範に基づきつつも、その形成にはその時代の政治的な課題や、文化や経済の特徴も深く関係している。こうした観点からこの授業では各時代の都城の形態と特徴について示したうえで、それがどのように形成されたのか検討する。その上で中国における都城制の特質とその展開の意味について考えていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students learn about the capital city planning in China, especially from the pre-Qin period to the Sui Tang period. The capital cities were designed not only by the ideas and norms about the capital, but also by the political issues and the characteristics of culture and economy in each era. First students learn about the form and characteristics of the capital cities in each era, then learns about how the capital cities were designed. Finally learn about the meanings of the changes in the capital city planning in China.

5. 学修の到達目標：1. 各時代の主要都城の形態について理解する。

2. 各時代の都城がどのように形成されたのかについて理解する

3. 中国における都城制の展開の意味について理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : 1. Students acquire basic knowledge about the forms of major capital cities in each era.

2. Students learn about how the capital cities were designed in each era.

3. Students learn about the meanings of the changes in the capital city planning in China.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は講義方式で行う。

1. ガイダンス

2. 先秦の都城 1

3. 先秦の都城 2

4. 秦漢の都城 1

5. 秦漢の都城 2

6. 魏晉の都城 1

7. 魏晉の都城 2

8. 南北朝の都城 1

9. 南北朝の都城 2

10. 南北朝の都城 3

11. 隋唐の都城 1

12. 隋唐の都城 2

13. 宋以降の都城制の展開

14. 都城制の変化の意味

15. まとめと試験

8. 成績評価方法：

・小テスト（30%）及び筆記試験（70%）によって評価する。

9. 教科書および参考書：

・教科書は使用しない。

・参考書は授業時に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：・予習・復習が必要。課題のある回はそれを行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：渡辺 健哉

コード：LB98828, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：10-13 世紀の東ユーラシアをめぐる諸問題
2. Course Title (授業題目) : Some problems of East Eurasian history from the Tenth to the Thirteenth Century
3. 授業の目的と概要：本講義では、10-13 世紀の東ユーラシアの歴史を学ぶことによって、時代の特徴や個性を歴史的に理解することを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course covers the history of East Eurasian(From the Tenth to the Thirteenth Century) to help students understand the characteristics of the times from a historical perspective.
5. 学修の到達目標：受講生が、この授業を通して東ユーラシア史の本髄を理解し、歴史に対してさらに深い興味を持つようになり、人間としての人格構成過程における重要な役割を果たせるようになることが到達目標である。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : This course is designed to help students understand history of East Eurasian and deepen their interest in history, with the hope that history will play an important role in forming their personalities as human beings.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
本授業は講義を中心に進める。
01) 導論(1) 東ユーラシアとは？
02) 導論(2) 羽田亨と満蒙史
03) 遼(契丹)の歴史(1)
04) 遼(契丹)の歴史(2)
05) 宋遼関係史研究の現状と課題
06) 金(女真)の歴史(1)
07) 金(女真)の歴史(2)
08) 宋金関係史研究の現状と課題
09) モンゴル帝国の歴史(1)
10) モンゴル帝国の歴史(2)
11) 元朝の歴史(1)
12) 元朝の歴史(2)
13) 元朝の歴史(3)
14) 総合討論
15) まとめ
8. 成績評価方法：
2 回の小テスト(20+20%)、期末レポート(40%)、平常点(20%)
9. 教科書および参考書：
各時間に適宜資料を配布する。
Readings will be distributed for each class.
10. 授業時間外学習：講義で紹介する参考文献を次の講義までに読んでおくこと。
Students are expected to read the reference books introduced in each lecture before the next lecture.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LB55406, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『晋書』載記の研究 I

2. Course Title (授業題目)：A study of JINGSHU ZAIJI

3. 授業の目的と概要：五胡十六国時代の漢文史料、『晋書』載記を読む。受講者は、4 回目の授業以降、該当部分の書き下し文と現代日本語訳を準備するほか、『晋書』載記以外の関連史料も参照して、『晋書』載記の記述と比較検討し、その結果をまとめて課題として提出する。このような作業を通じて、漢文史料読解—研究の手続きを体得し、漢文読解能力の向上を目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to become able to handle the Chinese classics as historical materials for research by reading “Zaiji” (載記：records of Wu Hu [五胡：The Five Barbarians]) in “Jing Shu” (晋書：History of Jing) .

5. 学修の到達目標：中国古代・中世の漢文史料を読解し研究するための基本的手続きを実践できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students handle the Chinese classics as historical materials for research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

『晋書』巻 104 石勒載記上を読み、関連する歴史的事項を調査する。

1、ガイダンス、『晋書』載記について

2、五胡十六国時代の概略

3、『晋書』載記読解の事例

4、『晋書』石勒載記上を読む (1) 石勒、王浚攻略を図る

5、『晋書』石勒載記上を読む (2) 石勒、王浚攻略を準備

6、『晋書』石勒載記上を読む (3) 石勒、王浚を攻撃

7、『晋書』石勒載記上を読む (4) 石勒、王浚を滅ぼす

8、『晋書』石勒載記上を読む (5) 石勒と劉琨との戦い

9、『晋書』石勒載記上を読む (6) 石勒、陝東伯となる

10、『晋書』石勒載記上を読む (7) 石勒、丁零の翟鼠を破る

11、『晋書』石勒載記上を読む (8) 石勒、劉琨を破る

12、『晋書』石勒載記上を読む (9) 石勒、代郡を攻略

13、『晋書』石勒載記上を読む (10) 石勒、段匹磾を破る

14、『晋書』石勒載記上を読む (11) 石勒、曹嶷と通和

15、授業の総括

8. 成績評価方法：

毎回の課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：三崎良章『五胡十六国【新訂版】』（東方書店「東方選書」2012 年）。小野響『後趙史の研究』（汲古書院、2020 年）。

その他、授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：課題の作成に取り組む。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

東洋史基礎講読 4 単位を既に履修していることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：川合 安

コード：LB65405, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『晋書』載記の研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：A study of JINGSHU ZAIJI

3. 授業の目的と概要：『晋書』載記の研究Ⅰの作業を継続する。Ⅱでは、当該部分の内容に関連する研究論文の調査の比重を高め、先行研究の成果を、現代日本語訳に反映させることを徹底する。これらの作業を通じて、漢文読解力の一層の向上と、中国古代中世史研究の具体的方法の習得を目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to become able to handle the Chinese classics as historical materials for research by reading “Zaiji” (載記：records of Wu Hu [五胡：The Five Barbarians]) in “Jing Shu” (晋書：History of Jing) .

5. 学修の到達目標：漢文読解力を向上させ、中国古代中世史の研究方法を身に着ける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students handle the Chinese classics as historical materials for reserch.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

『晋書』載記の研究Ⅰに引き続き、『晋書』巻 104 石勒載記上、巻 105 石勒載記下を読み、関連する歴史的事項を調査する。

1、ガイダンス、『晋書』載記関連研究論文について

2、『晋書』石勒載記上を読む（1）劉聰の死

3、『晋書』石勒載記上を読む（2）石勒と劉曜の対立（1）

4、『晋書』石勒載記上を読む（3）石勒と劉曜の対立（2）

5、『晋書』石勒載記上を読む（4）石勒の学校整備

6、『晋書』石勒載記上を読む（5）石勒の律令整備

7、『晋書』石勒載記上を読む（6）群臣による石勒の皇帝即位請願

8、『晋書』石勒載記下を読む（1）石勒、趙王を称す（1）

9、『晋書』石勒載記下を読む（2）石勒、趙王を称す（2）

10、『晋書』石勒載記下を読む（3）徐龕、石勒に降る

11、『晋書』劉曜載記下を読む（4）石勒の土族政策

12、『晋書』劉曜載記下を読む（5）石勒、九品官人法を施行

13、『晋書』劉曜載記下を読む（6）段匹磾、石勒に降る

14、『晋書』劉曜載記下を読む（7）石勒と祖逖

15、授業の総括

8. 成績評価方法：

毎回の課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：三崎良章『五胡十六国【新訂版】』（東方書店「東方選書」2012 年）。小野響『後趙史の研究』（汲古書院、2020 年）。

その他、授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：課題の作成に取り組む。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

『晋書』載記の研究Ⅰと連続して履修することが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB53502, 科目ナンバリング：LHM-HIS311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：明清史料研究 I

2. Course Title (授業題目) : Studies of Ming and Qing historical sources

3. 授業の目的と概要：中国明清時代の漢文史料読解を通じて、読むための手続き（史料の探し方や辞書・索引の使い方等）を習得する。その上で様々な課題探究に対する基礎知識を得る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course is designed to help students learn how to search for historical materials and how to use dictionaries / index through reading the Chinese historical documents of Ming Qing Period. Then students get basic knowledge on exploring various subjects about Chinese history.

5. 学修の到達目標：内容読解に当たっては、同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : In reading the text, students collect related historical materials by other contemporaries' writings and train to deepen understanding. Students perform a presentation in every class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは【 】です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方ー

2. 明清史料研究 I - (1)

3. 明清史料研究 I - (2)

4. 明清史料研究 I - (3)

5. 明清史料研究 I - (4)

6. 明清史料研究 I - (5)

7. 明清史料研究 I - (6)

8. 明清史料研究 I - (7)

9. 明清史料研究 I - (8)

10. 明清史料研究 I - (9)

11. 明清史料研究 I - (10)

12. 明清史料研究 I - (11)

13. 明清史料研究 I - (12)

14. 明清史料研究 I - (13)

15. 明清史料研究 I - (14)

8. 成績評価方法：

発表内容（平常点）

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB63502, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：明清史料研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Studies of Ming and Qing historical sources

3. 授業の目的と概要：卒業論文を作成していく上で基本となる漢文史料読解力を向上させると同時に、扱える中国近世史料の知識を増やし、明清時代史の研究方法を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will improve the reading skills of historical materials in Ming Qing Period and understand the research method of Early Modern China which is necessary to write a graduation thesis.

5. 学修の到達目標：内容読解に当たっては同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：In reading the text, students collect related historical materials by other contemporaries' writings and train to deepen understanding. Students perform a presentation in every class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は対面によって行う。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方ー

2. 明清史料研究Ⅱー (1)

3. 明清史料研究Ⅱー (2)

4. 明清史料研究Ⅱー (3)

5. 明清史料研究Ⅱー (4)

6. 明清史料研究Ⅱー (5)

7. 明清史料研究Ⅱー (6)

8. 明清史料研究Ⅱー (7)

9. 明清史料研究Ⅱー (8)

10. 明清史料研究Ⅱー (9)

11. 明清史料研究Ⅱー (10)

12. 明清史料研究Ⅱー (11)

13. 明清史料研究Ⅱー (12)

14. 明清史料研究Ⅱー (13)

15. 明清史料研究Ⅱー (14)

8. 成績評価方法：

発表内容 (平常点)

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。